

「川をきれいにする児童図画」審査会

講評：審査委員長 山形県教育センター指導主事 布施弘好

〔はじめに〕

今年度の「川をきれいにする児童図画コンクール」には、県内135の小学校から、ポスターの部に1,755点、川景の部に829点、合計2,584点の応募がありました。昨年度は、新型コロナウイルス感染防止による臨時休校を受け、短い夏休みとなった小学校も多かったため、応募数は例年より減少しましたが、今年度は一昨年度に近い、総数2,600点近い作品の応募がありました。

平成4年度から始まったこのコンクールは、県内で開催されている小学生対象の絵画やポスター募集の中でも、大規模なコンクールとなっています。これは、山形県の小学生の皆さんが真剣に川を大切に考えている表れだと思います。このように沢山の絵やポスターを一生懸命に描いてくれたことは大変うれしく、川に対する思いが広がり、定着していることは、本当に素晴らしいことだと思っています。



〔川への思いを大切に〕

皆さんの、山形県の川を大切に思う気持ちから、たくさんの素晴らしい作品が生まれました。元気よくいきいきと感動や思いが描かれた作品、丁寧に時間をかけて表現された作品、見る人に川への思いを共有させる作品など、数多くの作品と出会うことができました。

ポスターの部では「ふるさとのきれいな川を残していこう」というメッセージが強く伝わる作品、川景の部では実際に川に行き受けた印象や思い出から自分で見つけた川への愛着が感じられる作品が多く、どちらの部門も、きれいな川を大切に思う皆さんだからこそ生み出された作品ばかりでした。

〔出品者の皆さんへ〕

皆さんがこのポスターや絵を描こうとしたとき、作品のヒントやアイデアがすぐに浮かんできませんか？ 画面に向かう前に何を描こうか、何を伝えようか、じっくりと考えてみましょう。皆さん一人一人違う川への思いから、川の色や感じ方や筆の使い方もみんな違ってきます。たとえ、線が曲がっても、色がにじんでも、オリジナルの味わいがあります。自分らしさを大切に、楽しく迷いながら元気いっぱい描いてみてください。

作品を完成させるまでには、悩みや苦労が連続します。しかし、自分を信じ自分の力だけで乗りこえていくことがポスターや絵を描く面白さでもあります。チャレンジしながら素敵な作品をどんどん描いてくださいね。

〔指導される方へのお願い〕

以下に指導される方（学校の先生や保護者の皆さん）へのお願いをいくつか記します。

①子どもさんの作品は本人自身のものですので、他の人が手を加えることはできません。活動の際は、テーマや製作に関わる支援は必要ですが、「これはこう描くんだよ」「こうしないとだめだよ」といった指示や手直しは避け、それぞれの個性や発達段階に応じて、他の子どもさんと比べたり一様な技能は求めたりせず、その子どもさんの「得意技」で取り組ませてください。造形教育は子どもさんそれぞれの違いを理解し、認めていく事が大切です。

②描き始める前に川に対する思いをふくらませるための時間をじっくり取り、描きながら自分の思いや表し方を探究していくプロセスを大事にしてあげてください。安易に出来合いのアイデアの模倣はさせず、自分で工夫したオリジナルの作品になるようご指導ください。感じることは絵が描けることより大切なことです。日々の生活のなかで自ら感じ、考えるための様々な体験をさせてくださるようお願いいたします。

③子どもさんにとって、表したものを受け止めてくれる人がそばにいることは一番の応援になります。また、自分の思いを安心して外に表現できることが自信と自己肯定感につながります。子どもさんの考えや感じたことをそのまま受け止め、表現に共感する心と愛情をもって、楽しく対話を重ねていって頂ければと思います。

[さいごに]

たくさんある皆さんの素晴らしい作品から賞を決めるのは大変でした。審査は「上手さ」の順位を決めることではありません。誰かに今回の「代表」になってもらう、ということであり、皆さん一人一人が特別で、特別賞なのです。その作品を大切に飾り、そして次の作品に取り組んでいってください。それでは今年度の受賞作品をあらためて見てみましょう。

ポスターの部で特選を受賞した早藤天音さんの作品は、汚れてしまった川をみながら、川辺で立ちつくす擬人化された魚の親子の後ろ姿が印象的です。引越しを余儀なくされた魚の親子の背中から、悲しそうな表情までも目に浮かんできます。川や草、砂利などは、筆の方向をそれぞれ工夫し、水彩絵の具を薄く重ねながら、思い描いた色に仕上げています。川の中のゴミもそれぞれが目立つように工夫されています。「次はどこに住もう？」というコピーも、親子の魚のつぶやきのように感じられ、この親子が安心して住める、きれいな川にしていきたいという願いが強く伝わってきます。汚れている川を伝えるウイットに富んだアイデアに拍手です。

川景の部で特選を受賞した廣谷哉子さんの作品は、川遊びの楽しかったことを思い出しながら、うれしそうに描いている気持ちが感じられ、作品を見ているこちら側にも子どもたちの元気な声が聞こえてくるようで笑顔にさせてくれます。画面の中の一人一人がお友達なのかな。その表情や体の動きなどをしっかりと描き、顔や髪、水着や浮き輪などのそれぞれの色を丁寧に塗り分けています。川の流れや水しぶきも色や筆使いを工夫することで、きれいな川の水の様子やその水の心地良さが伝わってきます。このきれいな川で、来年も楽しい思い出を作って、その様子を描いてみてくださいね。

どちらの作品も作者の独自の視点が活かされています。皆さんも伝えたいことや感じたことを、自分の目線や感覚で、のびのびと表してみてください。

今年度も、「川をきれいにする児童図画コンクール」は、応募された皆さんの川への思いがたくさん詰まったものになりました。ぜひ皆さんの心の中の「山形県の川をもっときれいにしたい」という思いをさらに大きく育て、次の世代までつなげていってほしいと願っています。